



鉄道から、その背景が気になるように

鉄道が好きで、北海道の鉄道に惹かれて現地まで行ったことがあります。そこで運行本数が減っていていることに気づきました。なぜなのかを調べていくうちに沿線の産業の衰退や人口の減少など、色々な背景があることを知り、人文地理学という分野に辿り着きました。

ニッチな「人文地理学」が学べる大学

「人文地理学」を学びたいという思いで、大学を探しました。富山大学の人文学部では、人文地理学が学べるということで、高校の先生に紹介してもらい受験しました。僕がやってみたい分野の勉強ができることと、一度外に出てみたかったというもあり、富山大学への進学を決めました。富山に来てみて、鉄道が豊富な県だということに気づきました。新幹線に、あいの風、富山地方鉄道、路面電車、LRT、トロック列車など鉄道大国です。

「思えば形になる」ということを身をもって実感している「あなるまっち」の活動

大学の講義の中で、「Sketch Lab」(※)という場が富山市にあることを知り、好奇心から参加しました。そこでは学生から社会人まで、何か行動しようとする人が集まっていて、僕自身も「学生の立場で地域のために何かできることはないか」と考えるようになりました。

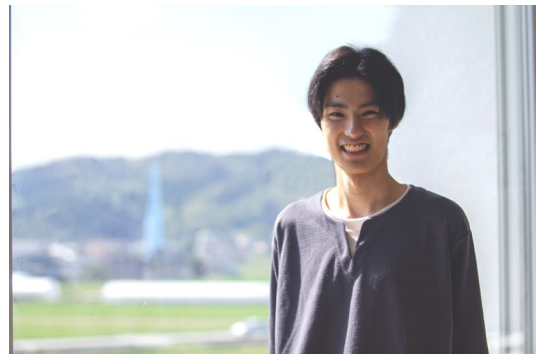
「Sketch Lab」に参加する富山県内の大学生と、大学の枠を超えて「あなるまっち」という団体を作りました。活動内容は、地元のシニアの方と学生が月1回交流できる場づくりをしています。

学生にとっては地域のことを知れる機会になり、シニアの方にとっては若者と交流できる場となって、回を重ねるごとに参加者を増やしています。ご縁があって大学生活を過ごしている富山のために何かできるか、僕なりに考えて行動しました。

※「SketchLab」とは、富山市が「未来共創」を推進する拠点として整備した交流・共創の場。学生は無料で利用・参加することが可能。

いずれは地元で、地元のために

卒業後は、地元新潟を拠点に過ごしたいと思っています。僕の目標は新潟で生まれた若者に「この地域に帰って家庭を築きたい」と思ってもらえる地域にすることです。地元である村上市で地域づくりに関わりながら、子育てしていきたいという願いがあります。村上市の街の規模、言葉、街並み、そしてそこにいる人のことを大切に思っています。



母校の後輩へ

大学での4年間は自分次第で成長もできれば、無駄にもなりません。大学生生活を通じてどんな自分になりたいのか。将来どんな人間になって、どんな価値を生み出すのか。時間を使って考えてみてください。

お世話になった高校の先生へ

大学受験終盤で、富山大学を紹介していただきありがとうございました。自分のやりたかった学問を学び、富山のひとの温かさに触れながら、やりたいことに挑戦する機会をいただいています。先生方にとって自慢の教え子と言ってもらえるよう日々精進します！